



2018年11月26日 第137号
北九州労健連ニュース

TEL 093-871-0449 FAX 093-872-3695

〒804-0094 北九州市戸畑区天神 1-13-13 シェルム天神 1F

北九州労働者
の健康問題連
絡会議 発行

<http://rokenren.com/>

2018年11月10日(土)～11日(日)にかけて「人間らしく働くための九州セミナーinふくおか」が、ももちパレス・西南学院にて、初日700名を超える参加者をえて開催されました。

《舟越実行委員長あいさつ》

「人間らしく働くための九州|セミナー」の福岡での開催は、2002年の13回大会以来、16年ぶりとなります。今回のセミナーでは、働く人びとの健康はどのような社会的決定要因に基づいて作られているかを明らかにし、その処方を考える中で健康を作り上げる、取り戻す運動の契機にしたいと考えました。セミナー期間中の2日間、大いに学び各地の運動の経験を交流し、実り多いセミナーとなることを期待したいと思います。

《田村代表世話人のあいさつ》

安倍政権は「働き方改革」として、過労死認定基準ギリギリまで認める労働基準法・労働安全衛生法等の改悪を行い、過労死促進制度ともいべき高度プロフェッショナル制度」の導入まで強行しました。私たちは「人間らしく働く」事が出来る社会・地域を求めて30年間九州セミナー運動を重ねてきました。今こそ人間らしく働くことが出来る職場・社会を創り、基本的人権として、健康で生き・働く権利＝健康権」を確立していく広範な運動が求められています。この2日間大いに学び、楽しみ、交流しましょう。

以下、参加された方々の投稿を紹介して、セミナーの報告とします。

健和会労働組合 遠藤 一寛

11月10日(土)は「健康の社会的決定要因」、「働き方改革のオモテと裏～安倍一強の落とし穴～」の二つの講演と、「働く人々の健康を決定する社会的要因と対策」のパネルディスカッションが行われました。「健康の社会的決定要因」の講演では、健康には個人的な問題よりメンタル

ヘルスも含め、社会的決定要因への介入が必要であることを学びました。HIA(健康影響予測評価)が1990年代より欧州を中心に普及していること、日本も2011年にHIAのスクリーニングについてガイ

ダンスを作成していることを学びました。

「働き方改革のオモテと裏～安倍一強の落とし穴～」では、週刊東洋経済のジャーナリストである風間直樹氏がドライバーの過酷な勤務状況や、研修医の長時間残業が原因の自死した問題、冠婚葬祭業に蔓延する個人請負の問題等を分かりやすく、楽しく講演をして頂きました。

「働く人々の健康を決定する社会的要因と対策」のパネルディスカッションでは、外国人労働者の実態として、「技能実習生」の問題について考えさせられました。「技能実習生」は日本では、奴隷のように使われていること、〇〇会社に勤務していることでビザが出ている為、辞めると同時に祖国に帰らないといけないこと、病気と

「第29回人間らしく
働くための九州セミナー
inふくおか」特集



—11/10(土)～12(日)—

いう診断を受けると祖国へ帰らないといけないこと、都道府県別に定められる最低時給よりも安い給料であること等と酷い状況があることを知りました。また雇用によらない働き方、フリーランスではウーバー等のアプリで簡単にライドシェアができるようになった影響でアメリカのタクシードライバーの収入が大幅に減少し、行政機関の建物の目の前で自死した事例を聞きました。また個人事業主は家族がどれだけ働いても家族の労働は必要経費にならず事業主一人の所得になり、税の減免が受けられないことを



知り考え深いものがありました。

11月11日(日)は、第3分科会「働き方・貧困・無料低額診療」に参加しました。若年層が抱える問題、美容師の離職率の多い問題、無保険の問題等、様々な問題に直面することができました。無料低額診療の制度は以前より知ってはいましたが、薬代は対象にならないことを学びました。また国民健康保険は傷病手当がないことも初めて知りました。

日本は先進国の中で一番、貧困率が高いと言われています。その原因として上記に掲げたような社会保障の問題が多く関わっていると思われます。社会保障全体の底上げを目指し、労働組合として要求をまとめ、戦っていくことが重要だということをあらためて考えることのできた九州セミナーでした。来年は長崎県で行われるそうです。来年は事例を出してみようかなと思います。

///// あなたの健康を壊している /////
///// 原因は？ /////

北九州労健連議長 永野忠幸

健康の社会的決定要因について、石竹久留米大学教授より、健康が社会疫学研究の成果により、個々人の育ってきた生活環境や社会環境、職業階層の違いや正規労働者と非正規労働者の差などの要因によって、メンタルヘルスや身体症状などの健康や死亡リスク等に関係があることが紹介されました。

石竹氏は、健康を決定づけるのは、保健や医療以外の要素が大きいとして、政策決定において保健医療以外のすべての政策分野で健康と言う視点を持つ重要性を強調しました。

健康格差を評価するツールとしてHIA(健康影響予測評価)を使った自治体における活用例を紹介。WHOのTHE・SOLID・FACTS報告などから職業階層の違いで寿命の格差が2倍以上あること、不安定雇用と健康が健康に良くないこと、いつ失業があるかわからないことなどで健康リスクが高くなる。

メンタルヘルスの面でも非正規が非常に状態が悪く、労災の発生も非正規の発生が高く、反面保障が低いこと、失業をすると死亡率も高くなる。社会生活環境も悪くなり生活も乱れ健康が悪くなる。健康と幸福を考える上でも社会的要因の改善を政策面に展開しなければならないことを紹介しました。



パネルディスカッション「働く人びとの健康を決定する社会的要因と対策」

北九州労健連副議長 日高琢二



「働く人びとの健康を決定する社会的要因と対策」をテーマに、労働法制の規制を受けない労働者の広がりの実態を解明するとともに、働く人びとの健康を決定づける社会的要因を明らかにし健康をつくり取り戻す運動の契機にしようと、田村昭彦議長をコーディネーターに各分野を代表するパネラーで報告と討論が展開された。

いま国会では日本の労働力不足を補うため、外国人労働者の受け入れを拡大する入管法改定案の審議入りが強行された。首都圏移住労働者ユニオンの本多書記長は、寄せられた労働相談事例から長時間労働、いじめ・パワハラ、労働災害が外国人労働者の健康を害する要因となっていることとともに、「奴隷的労働」といわれる「外国人技能実習生」の健康破壊の実態とその裏に潜む闇を報告した。技能実習の名の下に退職の自由がなく労働が強制される制度の問題、低賃金・長時間労働、そこから来る健康破壊の実態には驚かされた。本多書記長は、「技能実習制度は廃止すべきだ」とするとともに、国会で審議に入った入管法改定案は「技能実習制度に似ている。権利・人権を考えていない」と告発した。

福岡地区労連の内田事務局長は、フリーランスの代表格である白タク・ライドシェアの問題点を報告。本場アメリカでは、供給過剰が進んだ結果、自殺者を出すほど生活ができない事態に陥っているタクシー運転手の実態とともに、日本でも広がりつつあるハイヤー事業、宅配出前事業、経営パートナー事業などを紹介した。そこから浮かび上がる利用者の安全性の問題や健康破壊の実態を告発した。内田事務局長は、規制がなくなることでの「ルールなき社会」の進行への懸念とともに、「誇りの持てる仕事を！ディーセントワークの実現を！」と強く訴えた。

福商連婦人部協議会の小松会長は、家族経営の自営業者の劣悪な労働環境について、家族労働における税法上の問題点と社会保障制度（国保、年金）の不備を自身の実態をもとに報告。健康の問題では、健診を受けても後の受診を控え手遅れになった事例をもとに、体調が悪くなくても我慢することが多く、病状が悪化して受診する実態を紹介した。そして、自営業者は「自分で選んだのだから自己責任」とされることへの不条理を告発した。

福岡第一法律事務所の八木大和弁護士は、自身の「雇用によらない働き方」の経験にも触れながら、過労死認定された事例の酷い労働実態の紹介、雇用によらなければそもそも労災で救われない問題、不法や杜撰な労務管理の中で過労死が埋もれていく実態を報告。こうした実態は、95年の日経連が打ち出した「新時代の日本の経営」による「労働力の弾力化」「成果主義」「変形労働制」の浸透の帰結として現れているとし、今回の働き方改革についても「柔軟で多様な働き方の実現」という「まやかしの論理」で進められてきていることを指摘した。また、運動面では、「職場では救済を求めている人が孤立している。労働組合の存在・役割が大きく求められている」とした。



千鳥橋病院の舟越医師は、医療機関の立場から格差と貧困が進行している中での受療者の状況とともに、注目されている「健康の社会的決定要因」について解説。全日本民医連で取り組まれた「勤労世代の健康の社会的決定要因と糖尿病合併症の関連」を明らかにした研究から、

雇用形態、所得、学歴から労働者においても健康格差が存在していることを示した。そして、「病気の原因である生活習慣を左右する（決定する）社会的な要因を変えなければ人の健康は守られない」とし、「生活習慣を起こす原因の原因がある。労働もその要因であり働く環境を良くすることが重要である」と指摘した。

ディスカッションは、いま日本社会に起きている働くものの実態と健康との関係をリアルにめぐり出し、健康を左右する社会的決定要因の理解を深め、労働が豊かな人生を送るためにあることを再認識させられるとともに、今後の運動を勇気づけるものとなった。また、全体を通じて日本における社会保障制度の欠陥・不備が浮かび上がり、充実・改善する運動の必要性が確認された。

//////// 国民救援会の運動 //////////////////////////////////
//////// と重ね合わせて指針に //////////////////////////////////

国民救援会 下川登美慧

「人間らしく働くための九州セミナー」が今年第29回を迎えたことに、継続の力とそれを支える仲間の団結の素晴らしさをあらためて実感しています。私はこれまでに、第1回(福岡)第2回(長崎)、第3回、第10回、第21回(北九州)のセミナーに参加しました。遠出は困難になっていますが今年は8年ぶりの参加が叶いました。

会場に入った瞬間かつてと同じ熱い思いに包まれました。北九州労健連の学習会や「労健連ニュース」で毎年の九州セミナーを学べていたおかげで blanks ではなく里帰りにも似た気持ちでした。年々多岐にわたって深刻さを増す情勢と切迫する課題に向き合う九州セミナー運動の姿に、2010年「人間らしく働くための九州セミナー」と名称変更された意義の深さを再認識しています。今年もタイムリーなスローガンが掲げられて開かれた九州セミナーでした。

全体会を通して私が強く心に留めたことは田村昭彦先生のご挨拶の中がありました。『…戦争

は健康と幸福の最大の破壊者です。オタワ宣言の中で健康の前提条件の第一番目に平和を掲げています。人間らしく生き働くことを目指す私たち九州セミナーは、戦争法に断固反対し平和を守り抜くことを決意します』とお話しされました。国民救援会の運動と重ね合わせて指針になりました。残念ながら二日目の参加はできませんでしたが、報告集に込められた切実な訴えを重く受け止めて共に歩みたいと思います。心豊かになれる「九州セミナー」にいつかまた元気で参加できることを楽しみにしています。

//////// 長時間・過重労働の //////////////////////////////////
//////// 過酷な実態を学ぶ //////////////////////////////////

健和会大手町診療所 松本麻那美

今回初めて九州セミナーに参加して、各方面からの実態報告を聞き、解決改善しなければいけない労働・健康問題が山積みである現状を知りました。今日、連日報道されている外国人労働者の雇用問題についてですが、実際に働いている外国人労働者の労働実態までは深く知る機会がありませんでした。様々な事情を抱え、希望を持って日本に来たにもかかわらず、劣悪な労働環境や健康破壊を引き起こすほどの長時間労働などによって失われている命がたくさんあることに衝撃を受けました。単なる労働力確保の為だけに受け入れ、人としての受け入れを行っていない、現在の政府の施策はただちに変わるべきであると強く感じました。また、私たち日本人においても、長時間・過重労働の実態は改善されておらず、残業代不払いやハラスメントなど、労働における様々な問題が増加の一途をたどっています。健康を脅かし、人権を無視したこの現状を打破し、格差のない、整えられた労働環境にて安心して誰もが人間らしく働くことができる職場・社会を創っていくために、労働者一人一人自らがこれらの問題を重要視し、行動を起こしていかなければならないと思いました。